大阪城

2020 9/17 (木) 14:03 ラ

金港湾 西成分会

ごんわ 6647-4947

9月も半ば、夏から秋へ、半袖は少し
すずしすぎる。
昨日(9/16)菅内閣ができた。
安倍から菅へ。安倍政治を継承するとか
言ってはいるが、そんなことでは、状況は一歩も
前へは進まない。菅氏も政治家であれば、
そんなことはわかっているだろう。
自民党内では、来年秋に、本格的な総裁選が
あるので、菅内閣は、一応、まずは一年、
何をするかつ、であって、一日も ムダにできない
激動の期間になるだろう。
あと、6週間もすれば、海のむこうの、アメリカの
トランプの政治的生死も流れてくるだろう。
ほぼコロナで、ダメなオリンピックも、できるくと
ひっぱってきているが、結論を出さねばならん時が
迫っているだろう。中止の経済損失や混乱も
収拾する仕事もせなアカンだろう。
石破氏以上に安倍政治を不定して進まないと
菅政権の明日はないのだけれど、口先とは別に、真の
政治で、それができるかどうかだが、どうだろうか。

菅内閣発足・解散総選挙はいつ？

派閥談合で何がしたい政権なのか？

昔、組閣と言うのはお祭り騒ぎで報道陣が官邸前にテント小屋・テント村を作って、一人一人任命される議員をおっかけてすごいもりあがったイベントでした。

時代がかわってしまったのか。菅新首相の性格が地味なせいか。今回の総裁選挙の派閥談合があまりにも露骨なせいか、首班指名を受ける前日の夜にテレビで確定氏名の報道があって、残りは儀式だけということなので緊張感のまったくない政権発足となりました。

それにしても脱派閥とか前例踏襲をしないとか言いながら、党4役人事にしろ。閣僚人事にしろ、みごとな論功行賞・派閥分配人事に貫かれたものになっています。

目先の首相がかわってご祝儀相場の支持率が高いうちに総選挙を仕掛けるべきという意見もある中、3分の2の議席を持つ現在の優位性を活用すべきということであと1年我慢をどこまでするのか、この政権の一番の判断のようです。